



【5年】メダカの学習

今、5年生は、理科でメダカについて学習しています。本日、「おかざき農遊館」の夏目様にご来校いただき、各学級1時間ずつ、3時間に渡って、本物のメダカを目の前にして話を聞かせていただきました。夏目様の話は、右に示したように、具体的でわかりやすく、大変興味深いものでした。そのため、子供たちは話の内容がとても心に響き、何度も「えーっ！」と驚きの声を上げていました。夏目様からは、各学級にメダカをいただいたので、これから飼育にチャレンジしていきます。メダカの飼育を通して、子供たちには、科学の目と命を尊ぶ心を養っていってほしいです。



▲夏目様の話に真剣に耳を傾ける児童

＜夏目様の話から＞

- *メダカのメスの尻びれが切れているのは、卵を産みやすくするためである。
- *メダカは「太陽の魚」と言われ、日の光を好む。そのため、メダカを飼うのは屋外の方がよい。
- *メダカを飼うときは、水1Lに対し2匹の割合がよい。小型の水槽であれば、20匹程度にする。
- *メダカを飼う際の水は、川の水や雨水よりも水道水がよい。ただし、バケツに汲み置きしてカルキ抜きをする。
- *メダカには胃袋がない。餌を一度にたくさん食べられないので、餌のやりすぎに注意する。
- *メダカは、水温 25℃くらいが最も適している。冬場は 0℃くらいでも耐えられるが、夏場に 35℃を超えるとメダカは熱中症のようになり、生きるのが厳しくなる。
- *メダカの1年は、人間の25年くらいに当たる。生まれて日が浅い「赤ちゃんメダカ」は、ちょうど小学5年生のあなたたちと同じくらいの年齢になる。
- *生まれて1年目のメダカが、一番卵を産む。4～10月（条件：水温が20℃以上で、1日に12時間以上の日照がある）に卵を産み、年間では1000個も産む。
- *1000個の卵を産んでも、その全てが大人のメダカに成長できるわけではない。半分の500匹が育てば御の字である。そのくらい、生きるということは難しい。
- *メダカの姿が一番美しく見えるのは、色艶が最も鮮やかになる生まれて2年目のメダカである。



▲オスとメスの違いを観察



▲ルーペで卵を観察



心の伝わる「挨拶（あいさつ）」の連鎖

今週の月曜集会で、「挨拶」という漢字を見せて「この漢字は何と読むでしょうか」と問いかけました。そして、「あいさつ」と読むことを伝えた後、「挨」には「近づく」、「拶」には「迫る」という意味があり、挨拶は自分からするのがよいと話しました。そして、その日の朝、6年のエンヒケさんが、相手を見てお辞儀をし、心の伝わるよい挨拶ができたことを紹介すると、翌日から、エンヒケさんと同じように、相手を見て丁寧に挨拶をする子がとても増えました。心の伝わる挨拶の連鎖が大変うれしいです。